

南アフリカ共和国

Republic of South Africa

	2012年	2013年	2014年
①人口：5,400万人（2014年）			
②面積：121万9,090km ²			
③1人あたりGDP：6,483米ドル （2014年）			
④実質GDP成長率（%）	2.2	2.2	1.5
⑤消費者物価上昇率（%）	5.6	5.7	6.1
⑥失業率（%）	24.5	24.1	24.3
⑦貿易収支（100万ランド）	△31,545	△68,341	△68,638
⑧経常収支（100万ランド）	△161,704	△203,774	△206,644
⑨外貨準備高（100万米ドル）	43,996	44,864	44,267
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	141,791	136,516	145,082
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ランド、期中平均）	8.21	9.66	10.85

〔注〕⑥：第4四半期、⑦：国際収支ベース（財・サービス）
〔出所〕①④～⑥：南アフリカ共和国統計局、②：南アフリカ共和国政府、③⑨⑩：IMF、⑦⑧⑪：南アフリカ共和国準備銀行

2014年の南アフリカ共和国（以下、南ア）の実質GDP成長率は、1月から5カ月間続いた鉱山ストライキや電力供給不足のため、リーマン・ショック直後の2009年（マイナス1.5%）以来最低の1.5%だった。貿易は、ストライキなどの影響を受けてプラチナや金などの輸出が減少し、電力供給不足による発電用燃料購入を背景に原油の輸入が増加した。対日貿易は、乗用車を中心とする輸送機器が輸出入ともに増加している。対内直接投資は食品などの消費財、対外直接投資では医薬品や金融関連で大型投資の動きがみられた。

■伸び悩む経済、成長率は1.5%

2014年の実質GDP成長率は1.5%で、前年の2.2%から低下し、過去5年間で最低となった。民間最終消費支出は前年比1.4%増と前年の2.9%増を下回り、政府最終消費支出の伸びも前年の3.3%増から1.9%増へと鈍化した。さらに、国内総固定資本形成がマイナスに転じたことが影響した。

産業別にみると、GDPの約2割を占める金融・不動産・企業向けサービスが2.2%増と前年の3.0%増から鈍化したほか、2014年1月から5カ月間続いた鉱山労働者・建設組合連合（AMCU）のストライキの影響で鉱業は1.6%減になった。製造業も2014年7月の南アフリカ全国金属労組（NUMSA）のストライキや深刻化する電力供給不足の影響により、前年と同水準（0.4%増）にとどまった。

なお、南ア統計局は、2014年第3四半期の成長率の発表時から、GDP算出の基準年を2005年から2010年へと

変更するとともに、2009年に国連が発表した国民経済計算「2008SNA」を導入して改定を行った。この結果、2013年の名目GDPは改定前から4.4%増の3兆5,340億ランドとなった。

■鉄鉱を中心にインドへの輸出が急増

南ア歳入庁によると、2014年の貿易（通関ベース、暫定値）は、輸出が9,847億9,304万ランド（前年比6.4%増）、輸入が1兆819億6,683万ランド（8.8%増）だった。貿易収支の赤字幅は前年の688億4,047万ランドから、2014年は971億7,380万ランドに拡大し、4年連続の赤字となった。

輸出を品目別にみると、貴石・貴金属など（構成比16.0%）の減少が目立った（前年比11.5%減）。通貨ランド安の進行、ストライキの影響による採掘活動の停滞、国際価格の下落などにより、プラチナ（金額ベースで13.1%減、数量ベースで14.9%減）や金（金額で19.7%減、数量で21.0%減）が減少した。他方、卑金属および同製品（構成比13.1%）は14.2%増で、最大の輸出先の中国向けとともに米国、日本、オランダ向けが伸びた。

鉱物性生産品（24.0%）は、マンガン鉱が伸びた（金額で17.9%増、数量で21.3%増）が、鉄鉱（金額で8.9%減、数量で3.8%増）やクロム鉱（金額で10.6%減、数量で16.4%減）の輸出額減少で、全体としては前年比同水準

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

	2013年	2014年	2014年				2015年 Q1
			Q1	Q2	Q3	Q4	
実質GDP成長率	2.2	1.5	△1.6	0.5	2.1	4.1	1.3
民間最終消費支出	2.9	1.4	1.0	1.0	1.1	1.6	2.8
政府最終消費支出	3.3	1.9	1.7	2.4	1.4	1.0	△1.9
国内総固定資本形成	7.6	△0.4	△9.2	△5.4	2.4	2.6	1.8
財貨・サービスの輸出	4.6	2.6	1.6	△15.7	8.6	22.7	8.3
財貨・サービスの輸入	1.8	△0.5	21.7	△14.2	12.5	7.8	15.8

〔注〕四半期の伸び率は前期比。

〔出所〕南ア準備銀行

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2013年		2014年(暫定値)		2013年		2014年(暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	92,537	105,953	10.8	14.5	67,134	70,025	6.5	4.3
鉱物性生産品	234,530	236,023	24.0	0.6	221,195	257,033	23.8	16.2
化学品	55,564	62,927	6.4	13.3	93,520	102,274	9.5	9.4
貴石・貴金属など	177,820	157,387	16.0	△11.5	8,687	11,163	1.0	28.5
卑金属および同製品	112,779	128,768	13.1	14.2	49,568	49,974	4.6	0.8
一般機械・電気機械	86,441	99,034	10.1	14.6	244,595	249,438	23.1	2.0
輸送機器	88,443	104,726	10.6	18.4	97,199	102,907	9.5	5.9
合計(その他含む)	925,894	984,793	100.0	6.4	994,734	1,081,967	100.0	8.8

[出所] 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2013年		2014年(暫定値)			2013年		2014年(暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	115,650	94,198	9.6	△18.6	中国	154,472	167,563	15.5	8.5
米国	66,995	69,749	7.1	4.1	ドイツ	103,189	108,471	10.0	5.1
日本	53,751	52,843	5.4	△1.7	サウジアラビア	77,444	77,323	7.1	△0.2
ドイツ	41,592	49,448	5.0	18.9	米国	62,883	71,359	6.6	13.5
インド	28,961	40,911	4.2	41.3	ナイジェリア	34,890	55,703	5.2	59.7
英国	31,849	37,520	3.8	17.8	インド	51,863	49,363	4.6	△4.8
モザンビーク	27,356	32,535	3.3	18.9	日本	39,307	40,966	3.8	4.2
オランダ	29,572	32,499	3.3	9.9	英国	32,117	35,377	3.3	10.2
ザンビア	26,279	29,507	3.0	12.3	イタリア	25,980	28,644	2.7	10.3
ベルギー	19,029	26,840	2.7	41.0	タイ	26,540	25,773	2.4	△2.9
ジンバブエ	23,187	24,805	2.5	7.0	フランス	22,320	23,915	2.2	7.2
合計(その他含む)	925,894	984,793	100.0	6.4	合計(その他含む)	994,734	1,081,967	100.0	8.8

[出所] 南ア歳入庁

の0.6%増にとどまった。動植物生産品・食料品類(10.8%)は、香港やアラブ首長国連邦向けのかんきつ類が増えて14.5%増だった。

輸送機器(10.6%)は、乗用車の6割近くを占める排気量1500~3000ccクラス(ガソリンエンジン)が20.3%伸びたほか、排気量1500~2500ccクラス(ディーゼルエンジン)が3倍に増え、全体で18.4%増となった。南ア自動車製造者協会(NAAMSA)によると、2014年の乗用車輸出台数は、前年比2.0%増の15万4,920台だった。主要国別にみると、米国(4万4,712台、26.3%減)向けは減少したものの、ドイツ(3万7,333台、7.6%増)、日本(2万6,220台、12.3%増)、ベルギー(1万3,773台、約313倍)、オーストラリア(1万3,162台、14.8%増)向けは拡大した。メルセデス・ベンツの「Cクラス」など排気量1500~3000ccクラス(ガソリンエンジン)の乗用車が欧州向け輸出の伸びを牽引したが、同時にランド安も金額の伸びに寄与した。

国・地域別輸出では、中国向けが6年連続の首位を維持したが、輸出額は941億9,800万ランド(前年比18.6%減)となり、構成比は前年の12.5%から9.6%に低下した。主要輸出品目である鉄鉱(金額で25.0%減、数量で11.6%

減)やクロム鉱(金額で18.6%減、数量で27.6%減)などの鉄鉱が減少したことが要因となった。2位の米国は前年比4.1%増だった。貴石・貴金属など(9.8%減)や乗用車を中心とする輸送機器(19.8%減)は減少したものの、フェロアロイ(30.0%増)や遠心分離機・フィルター機器(33.5%増)などの輸出が拡大した。3位の日本は、主要輸出品目であるプラチナが20.3%減だったことから、前年比1.7%減となった。インドは鉄鉱が11.5倍と大幅増となった結果、7位から5位へと躍進した。また、輸出全体の3割を占めるサブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ)向けは前年比13.6%増となった。南部アフリカ関税同盟(SACU)の恩恵を受けるボツワナ

(16.5%増)やナミビア(20.0%増)以外では、鉄鋼や建設機械を中心としたモザンビーク(18.9%増)や、テレビを主とするザンビア(12.3%増)向けの輸出が伸びた。

■原油輸入の拡大でナイジェリアは5位に

輸入を品目別にみると、鉱物性生産品(構成比23.8%)のうち、原油は金額で前年比23.8%増、数量で13.7%増だった。電力公社エスコムは電力供給問題に対処すべく発電用燃料の購入を増やしている。ディーゼル燃料も金額で5.4%増、数量で17.5%増だった。

国・地域別輸入では、6年連続首位の中国が8.5%増で、携帯電話などの電話機(33.8%増)やプラスチック製品(21.7%増)が伸びた。2位のドイツは、乗用車などの輸送機器(24.5%増)や一般機械(12.9%増)が伸びて5.1%増だった。3位のサウジアラビア(0.2%減)からの約9割を占める原油は、金額で6.5%減、数量で16.7%減となった。他方、同じ産油国でも、ナイジェリアからの輸入は59.7%増(原油は、金額で60.5%増、数量で53.6%増)と拡大し、同国は順位を前年の7位から5位へと上げた。サブサハラ(構成比13.2%)からの輸入は、ナイジェリアのほか、アンゴラ(15.7%増)やガーナ(17.1%増)が伸

表4 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資額
 <国際収支ベース、ネット、フロー・残高>

(単位：100万ランド)

	2012年	2013年	2014年	2013年末残高
対内直接投資額	37,428	80,138	61,994	1,595,760
対外直接投資額	24,528	64,196	75,291	1,349,855

〔出所〕南ア準備銀行「Quarterly Bulletin (四季報)」2015年3月号

びた結果、25.4%増だった。

■ AGOAは2025年9月まで延長

南アは米国のアフリカ成長機会法 (AGOA) の対象国 (2001年10月2日認定)。同法はアフリカ諸国を対象とした特惠制度の一つで、アフリカ諸国の経済発展、アフリカ産品の米国市場へのアクセス改善、米国企業のビジネス活動の促進を目的とするもの。2000年5月に施行され、2015年9月末で失効予定であったが、2015年4月に延長法案が米国上下両院に提出された。同法案は6月29日にオバマ大統領の署名を受けて成立し、2025年9月まで10年間延長された。AGOAが延長されることで、米国向けに輸出されるBMWの「3シリーズ」やメルセデス・ベンツの「Cクラス」など、年間6万3,000台の自動車の南アからの輸入関税が免除となる。他方、米国からAGOA延長の条件として求められていた鶏肉輸入に対する南アのアンチダンピング措置の解除については、今後、両者で協議していくことに合意した。

■金融や医薬品で大型の対外投資

投資環境に関連し、貿易産業省は2015年5月1日から黒人の経済力強化政策 (BEE) の新コードを発効したが、「所有権」の評価基準をめぐって同省の声明が二転三転しており、6月の特別調査チームによる調査の報告が待たれる。また、内務省は2014年5月から改正入管法を施行し、企業内転勤ビザが最長2年から4年に延長されたが、ビザ取得・更新における事務手続きの煩雑化・長期化などは課題となっている。

南ア準備銀行によると、2014年の対内直接投資 (国際収支ベース、ネット、フロー) は前年比22.6%減の619億9,400万ランドだった。投資案件は、建設分野では、フランスのセメントメーカーのラファージュが、アングロ・アメリカンとの合弁会社であるラファージュ・ターマックの株式50%を取得すると発表した (7月、8億8,500万ポンド)。食品分野では、コカ・コーラが英SABミラーやグーチェ・ファミリー・インベストメントと合弁でコカ・コーラ・ビバレッジズを設立すると発表した (11月)。またその一環として、コカ・コーラはSABミラーから2億6,000万ドルで、全世界における「アップルタイザー」の商標権等を得る。サムスン電子は、液晶テレビの生産工場をダーバン近郊に開設すると発表し (7月)、12月に操業を開始した (2,000万ドル)。

一方、南ア企業による2014年の対外直接投資 (国際収支ベース、ネット、フロー) は、前年比17.3%増の752億

表5 南アフリカ共和国の主な対内直接投資案件 (2014年)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
建設	ラファージュ	フランス	7月	8億8,500万ポンド (約15億ドル)	英資源大手アングロ・アメリカンとの合弁企業 (ラファージュ・ターマック) の株式50%を取得すると発表。
家電	サムスン電子	韓国	7月	2,000万ドル	生産体制強化のためダーバン近郊に液晶テレビの工場を開設すると発表。
広告	電通イージス・ネットワーク	日本	8月	n.a.	広告会社クリムゾン・ルームの株式60%を取得することで合意。
食品	コカ・コーラ	米国	11月	2億6,000万ドル	SABミラーやグーチェ・ファミリー・インベストメントと合弁会社を立ち上げ、その一環としてSABミラーから全世界における「アップルタイザー」の商標権等を得る。
建設	LIXIL	日本	11月	6,160万ユーロ (約86億円)	グロエグループ (GROHE Group) と共同でDistribution & Warehousing Networkの水回り部門の株式51%を取得。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表6 南アフリカ共和国の主な対外直接投資案件 (2014年)

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
医薬品	メディクリニック	スイス	6月	32億ランド	スイス進出の足掛かりとして、同国の私立病院ラ・コリーヌを買収すると発表。
	アスペン	日本	10月	18億9,000万円	グラクソ・スミスクライングループからの出資を受けてアスペンジャパンを設立すると発表。日本のジェネリック市場を開拓する。
金融	オールド・ミューチュアル・ウェルス	英国	10月	5億8,500万ポンド	英国における金融ネットワーク情報等を獲得するため、資産運用会社Quilter Cheviotの株式を取得すると発表。
	ネドバンクグループ	トーゴ	10月	4億9,340万ドル	エコバンク・トランスナショナルとの戦略的提携に基づき同社の株式20%を取得すると発表。
製造業	モンディグループ	米国	10月	1億500万ドル	北米における産業用バッグ、クラフト紙事業に参入するため、グラフィック・パッケージング・インターナショナルの株式を取得。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表7 南アフリカ共和国の対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	3,486	2,412	4.6	△30.8	化学品	1,417	1,484	3.6	4.7
鉱石、スラグおよび灰	9,692	11,119	21.0	14.7	鉄鋼・同製品	1,541	1,080	2.6	△29.9
鉄鉱	7,261	8,414	15.9	15.9	一般機械	8,313	8,200	20.0	△1.4
マンガン鉱	1,515	1,510	2.9	△0.3	印刷機	1,961	2,058	5.0	4.9
木材、チップ	1,397	1,525	2.9	9.2	ブルドーザー、地ならし機等	1,747	1,723	4.2	△1.4
貴石・貴金属など	24,861	19,808	37.5	△20.3	車両用ガソリンエンジン (1000cc超)	45	47	0.1	4.4
鉄鋼および同製品	3,565	4,524	8.6	26.9	車両用ディーゼルエンジン	41	29	0.1	△29.3
フェロクロム (炭素含有量4%超)	2,619	3,321	6.3	26.8	電気機器	2,102	1,733	4.2	△17.6
アルミニウム・同製品	2,449	3,679	7.0	50.2	輸送機器	8,178	9,088	22.2	11.1
輸送機器	4,844	6,362	12.0	31.3	乗用車	4,694	4,883	11.9	4.0
					貨物自動車	1,456	1,754	4.3	20.5
					天然ゴム	1,508	1,458	3.6	△3.3
合計 (その他含む)	53,751	52,843	100.0	△1.7	合計 (その他含む)	39,307	40,966	100.0	4.2

〔出所〕南ア歳入庁

9,100万ランドだった。投資案件をみると、製薬大手のアスペンが、英国のグラクソ・スミスクライン・グループからの出資を受けて、日本にアスペンジャパンを設立、ジェネリック医薬品市場の開拓に乗り出すと発表した(10月、約18億9,000万円)。金融分野では、ネドバンクグループが戦略的提携に基づき、トーゴのエコバンク・トランスナショナルの株式20%を4億9,340万ドルで取得すると発表した(10月)。

■伊藤忠出資のプラットリーフ案件に採掘権の実効承認

南ア歳入庁によると、2014年の対日輸出は前年比1.7%減の528億4,300万ランド、輸入は4.2%増の409億6,600万ランドだった。

南アの日本への輸出を品目別でみると、全体の約4割を占める貴石・貴金属などが20.3%減となった。プラチナ鉱山でのストライキなどの影響とみられる。また輸送機器(構成比12.0%)は31.3%増で、フォルクスワーゲンの「ポロ」などの排気量1000~1500ccクラス(ガソリンエンジン)が48.1%増、メルセデス・ベンツの「Cクラス」などの排気量1500~3000ccクラス(ガソリンエンジン)が48.5%増となるなど、乗用車の輸出が伸びた。

南アの日本からの輸入を品目別でみると、乗用車(4.0%増)や、貨物自動車(20.5%増)のほか、プリンター・関連部品(5.0%増)が伸びたが、メカニカルショベルやフォークリフトを含む一般機械(1.4%減)は減少した。

日本の財務省統計によると、2014年の南アへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は1,758億円だった。主な投資案件をみると、アドヴィックスはダー

バン近郊にプレーキ製品の製造、販売会社を設立し、拡販に向けた供給基盤の構築を図る(2014年3月)。電通イーダス・ネットワークは、エクスペリエンシャル・マーケティング(顧客に商品やサービスを体験してもらうマーケティング手法)領域で市場を牽引する南ア広告会社のクリムゾン・ルームの株式60%を同社から取得すると発表した(8月)。カナダのIvanhoe Nickel & Platinumが進めるプラットリーフ事業に2010年9月より参入している伊藤忠商事は、2012年に採鉱を終え、2014年11月に採掘権実効承認を得た。2019年の精鉱生産開始を目指す。アングロ・プラチナが操業するモハラクウェナ鉱山に匹敵もしくはそれ以上となる世界最大級の鉱山開発で、鉱山には1,000トン超のプラチナの埋蔵が確認されている。LIXILは同社の関連会社と共同で新設した合弁会社を通じ、水回り製品の製造・販売会社Distribution & Warehousing Network(以下、DAWN)の水回り部門の株式51%を取得すると発表した(2014年11月、6,160万ユーロ)。南アでの生産設備を確保するだけでなく、DAWNのネットワークを駆使し、アフリカ市場を開拓する。マツダは、南アにおけるブランド強化と販売拡大を目的に、販売統括会社マツダサザンアフリカ(以下、MSA)を2013年7月に設立し、2014年10月に従来の販売代理店であるFord Motor Company of Southern AfricaからMSAに販売業務を引き継いだ。2015年1月には、MSAが実施する3,000万ランドの第三者割当増資を伊藤忠商事が引き受け、MSAはマツダと伊藤忠商事との合弁会社となった。東京海上日動火災保険は、サブサハラ・アフリカにおける顧客サポートおよび保険市場の調査体制を拡充すべく、ヨハネスブルクに駐在員事務所を2015年4月に開設した。